

端境期等対策産地育成事業（令和3年度採択分）に関する事業評価票

	都道府県名	事業実施主体名	取組年度	指標項目 (成果目標)	成果目標の達成状況				主な取組内容	委員所見
					基準年 令和2年	目標年：A (3年目) 令和5年	目標値：B 増減率 (%)	達成率(%) (A／B)		
1	北海道	新ブランド農産物生産組合 あっさぶ農匠（かぼちゃ）	令和3年度～ 令和5年度	出荷割合 (%)	0.0	72.0	44.4 (皆増)	162%	・心土破碎、ブラウ耕 ・種子消毒 ・マルチ施用 ・地力増進作物	目標年において、所期の目標を達成している。
				出荷量増加 (t)	0.0	328.5	200.0 (皆増)	164%		
2	北海道	とうや湖農業協同組合 (だいこん)	令和3年度～ 令和5年度	出荷割合 (%)	0.0	46.9	20.0 (皆増)	235%	・高畝栽培 ・種子消毒 ・マルチ施用	目標年において、所期の目標を達成している。
				出荷量増加 (t)	0.0	1,161.9	483.0 (皆増)	241%		
3	熊本県	ASOアグリ倶楽部（キャベツ）	令和3年度～ 令和5年度	出荷割合 (%)	0.0	47.0	20.0 (皆増)	235%	・ブラウ耕 ・微生物資材施用 ・土壌改良資材施用	目標年において、所期の目標を達成している。
				出荷量増加 (t)	0.0	729.2	296.0 (皆増)	246%		
4	宮崎県	北霧島加工野菜生産組合 (ほうれんそう)	令和3年度～ 令和5年度	出荷割合 (%)	100.0	100.0	100.0 (－)	100%	・ブラウ耕、サブソイラー ・種子消毒 ・土壌改良資材施用	目標年において、所期の目標を達成している。
				出荷量増加 (t)	805.0	1,718.0	1,610.0 (100.0%)	107%		
5	鹿児島県	大隅中央やさい生産組合 (ごぼう)	令和3年度～ 令和5年度	出荷割合 (%)	100.0	100.0	100.0 (－)	100%	・ブラウ耕、高畝栽培 ・ゾウムシ等の適時予防 ・鶏ふん、豚ふん等のたい肥や 苦土石灰の施用	目標年において、所期の目標を達成している。
				出荷量増加 (t)	554.3	1,123.1	1,110.0 (100.3%)	101%		
6	鹿児島県	薩摩・大隅広域ごぼう出荷組合 (ごぼう)	令和3年度～ 令和5年度	出荷割合 (%)	0.0	100.0	100.0 (皆増)	100%	・微生物資材施用 ・ダブルマルチ、寒冷紗 ・土壌改良資材施用	目標年において、所期の目標を達成している。
				出荷量増加 (t)	0.0	646.1	645.0 (皆増)	100%		
7	鹿児島県	アグリネットカンパニー (ごぼう)	令和3年度～ 令和5年度	出荷割合 (%)	0.0	100.0	100.0 (皆増)	100%	・微生物資材施用 ・ダブルマルチ ・土壌改良資材施用	目標年において、所期の目標を達成している。
				出荷量増加 (t)	0.0	708.9	645.0 (皆増)	110%		

	都道府県名	事業実施主体名	取組年度	指標項目 (成果目標)	成果目標の達成状況				主な取組内容	委員所見
					基準年 令和2年	目標年：A (3年目) 令和5年	目標値：B 増減率 (%)	達成率 (%) (A／B)		
8	鹿児島県	大崎町だいこん出荷組合 (だいこん)	令和3年度～ 令和5年度	出荷割合 (%)	0.0	39.6	39.1 (皆増)	101%	・心土破碎 ・マルチ施用 ・地力増進作物	おおむね目標を達成している。 出荷量の増加について、達成率が100%を越えなかったのは、事業対象 契約の相手先のうちの1者が契約期間中に破産したことにより出荷でき なくなったことが要因であるが、達成率が96%であり目標をほぼ達成 していると評価できる。 新たな加工・業務用の出荷先を見つけて出荷した数量を加味すると 1,199.6tと目標を達成していることも評価できる。
				出荷量増加 (t)	0.0	754.1	782.5 (皆増)	96%		
9	沖縄県	あしたの農業かぼちゃ生産組合 (かぼちゃ)	令和3年度～ 令和5年度	出荷割合 (%)	100.0	100.0	100.0 (－)	100%	・サブソイラー ・キチン酵素・カルエキスの葉 面散布 ・天然フミン粒の鋤きこみ	出荷量の増加について、目標を達成していない。 達成率が100%を越えなかったのは、ここ数年の天候不順（2年目：着 花時期の多雨、3年目：栽培初期から中期の干ばつ）で生産力の強化 に繋がらなかったことに加えて、食味優先の品種の選定のため単収が 向上しなかったことが要因である。 品種の選抜については、食味などの要素よりも、まずは収量を安定さ せることを優先すべきと考える。 なお、3年間の平均出荷量は128.2tと現状値を下回っていることに加 えて、3年間で一度も目標を達成していないことから、改善計画を作 成し目標達成に向けて引き続き取り組むよう指導を行っていく。
				出荷量増加 (t)	222.4	100.1	320.9 (44.3%)	31%		